

コラム：現役部員の家族インタビュー②

～日頃より当部を支えて下さっている保護者の皆様に感謝を込めて～

第41代 塩谷家

① 理科大ソフトボール部の印象

選手が髪を染めたり、タバコを吸ったりすることなく、真面目にストイックに取り組んでいるように見えます。

また、試合観戦に行くと東京から遠く離れたところであってもOBの方々が応援に来られていたり、父兄に対する挨拶、試合での態度、相手チームへの敬意であったり、ソフトボールへ取り組む姿勢は、指導者である柳田先生の教えや延々と受け継がれた良い伝統だと感じます。

さらには、スポーツ推薦での入学・入部がない中で、勉強との両立は大変だと思うが、真摯に陰日向なく努力した成果がリーグ戦優勝やインカレ出場という結果に繋がっていると思います。



② 高校の部活と比べての違い

高校の部活動では指導者を中心に、選手がそのオーダーをこなしながらチームへの献身性が求められるが、I部リーグで活動する大学のチームは、練習時間の捻出や練習メニュー、自主的なトレーニング等、選手の主体性が中心であり、それぞれが自らの課題に向き合い、克服に向けて追い込んだ結果が高いチーム力に繋がっていると思います。簡潔に言えば大人のチームと子供のチームと言えるかもしれない。

③ 理科大ソフトボール部に入ってから成長

勉強と部活の両立で悩んでいたようだが、先輩方を見習うことで高いレベルを目指した生活パターンを築いているようです。

また、先輩、同級生、下級生と親密に付き合っているようで、特に先輩からはトレーニング方法や自主練だけでなく部活を離れた部分でも親しくしていただき、就職活動等の話を聞くなど親元を離れ心配していたことが杞憂であったと安堵しています。

高校までストイックに全国を目指すチームで活動していたこともあり、継続して全国レベルのチームで頑張ることが勉強のモチベーションにも繋がっているようです。